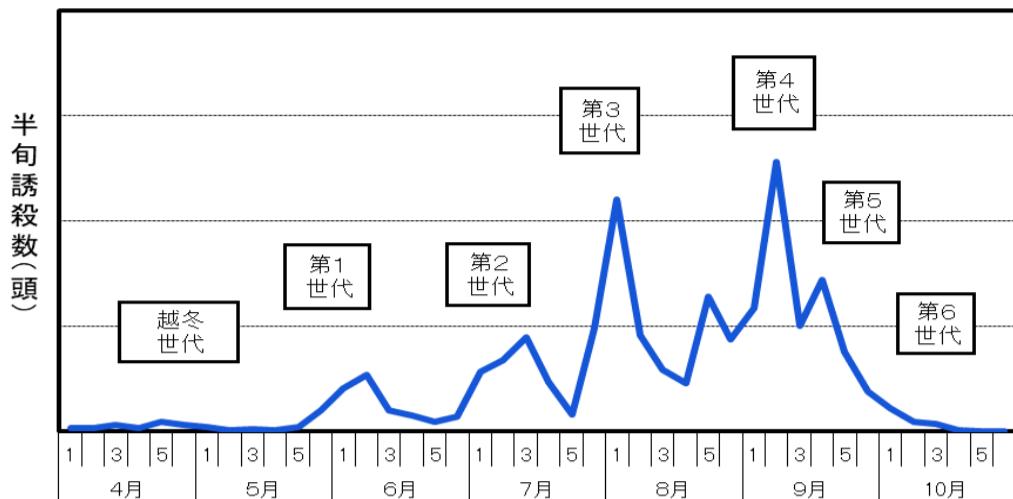


モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

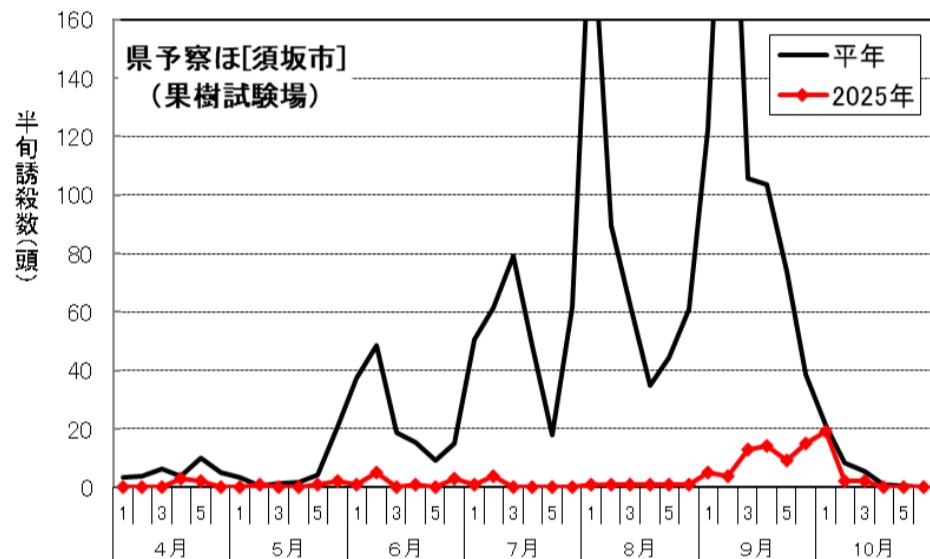
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年6～7回発生する。
- ・各世代成虫の発生最盛期は、越冬成虫が4月下旬、第1世代は6月上旬、第2世代は7月中旬、第3世代は8月上旬、第4世代は8月下旬、第5世代は9月下旬、第6世代は10月中旬頃である。
- ・寄生量は第3世代から急増し、第4、5世代は高密度となる。
- ・発生が多くなる第2～4世代の防除が重点になる。
- ・薬剤防除の目的は、主に幼虫による葉への食入防止である。

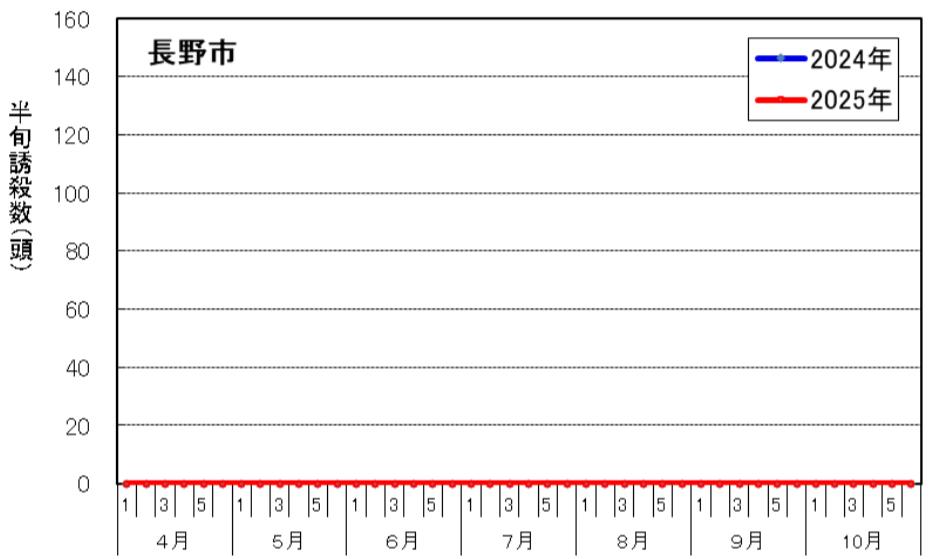
○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



【コメント】

- ・年間何世代も発生する本種であるが、本年は栽培期間の後半を除き、発生が少なかった。年平均誘殺頭数は2000頭近くであり、過去には6000頭を超える年もあったが、本年は100頭強にとどまり、この10年では最も少なかった。

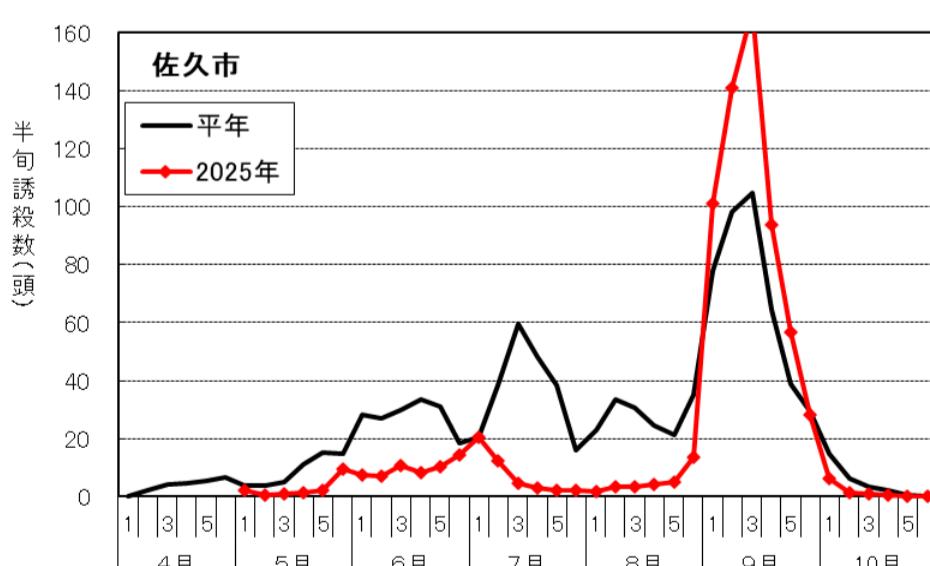
○長野市（病害虫防除部）



【コメント】

- ・本地点は観察を開始以降誘殺がないが、本年も誘殺は記録されなかった。

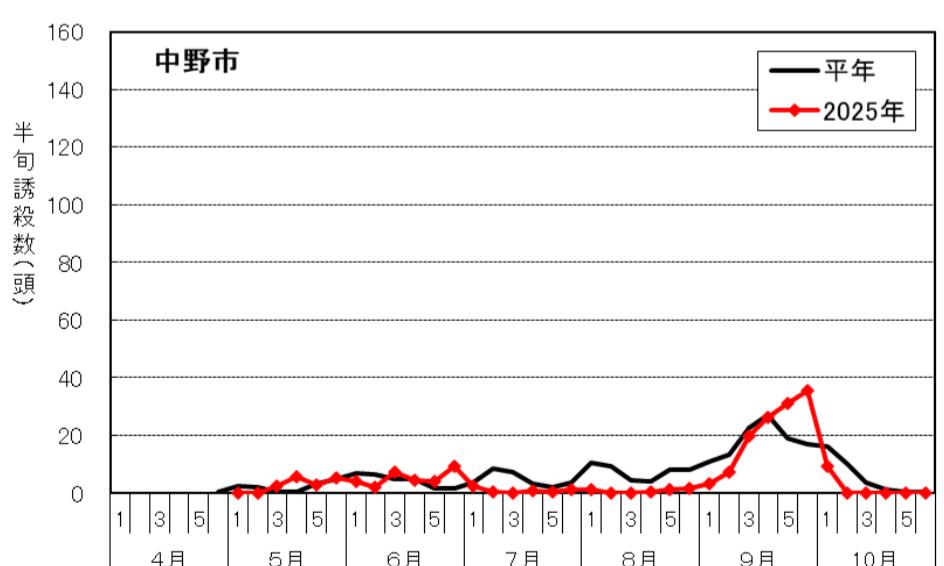
○佐久市（※佐久農業農村支援センター調査協力）



【コメント】

- ・越冬世代から第3世代までの発生は平年より少なかった。第4、5世代が誘殺される9月の誘殺頭数は平年比170%程度とやや多かった。その後は平年よりやや早く終息した。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【コメント】

- ・栽培期間の前半は、半旬で10頭以下ではあるが誘殺が続いている。一方、夏季の7、8月はほとんど誘殺が記録されなかった。9月になると誘殺が増え始め、9月末のピークには平年の約2倍の数が記録された。終息は平年より早かった。